

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/4 （9/27との比較）	10/4 （9/27との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.23% （▲0.12）	80.32円 （▲1.37%）	+1.6% 2019年2Q	1.75%	発表されたGDP（国内総生産）は市場予想を下回った一方、製造業PMI（購買担当者景気指数）は前月を上回る内容。原油価格が下落する中、カナダドルは対円で下落。米国景気に先行き不透明感が増す中、国債利回りは低下。	住宅着工件数や雇用統計などが発表予定。世界的に景気先行きへの不透明感が高まり、米中の通商協議の動向に注目が集まる中、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.91% （▲0.08）	26.36円 （+1.53%）	+1.0% 2019年2Q	5.50%	発表された鉱工業生産が市場予想を上回り、製造業PMIが前月比で改善を示す内容。議会上院で年金改革法案の骨子が可決される中、レアルは対円で上昇。国債利回りは低下。	小売売上高やインフレ指標などが発表予定。市場での期待が高い年金改革については、支出削減効果が下方修正されるとの見方もあり、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.64% （▲0.06）	5.48円 （▲0.03%）	-0.8% 2019年2Q	7.75%	発表された製造業PMIは前月比で改善し、消費者信頼感が市場予想を上回る内容。ロペスオブラドール大統領が景気浮揚を狙い大型インフラ整備計画を近く発表すると言及。メキシコペソは対円で下落。国債利回りは低下。	登録雇用創出合計やCPI（消費者物価指数）などが発表予定。大型インフラ整備計画など政策対応が待たれ、米中の通商協議などに注目が集まる中、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。
	A3	→ 金利横ばい	↗	→ 景気安定	→ 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/4 （9/27との比較） 今後の見通し （※4）	10/4 （9/27との比較） 今後の見通し （※5）	前年比 （※3） 景気の方向性 （※6）	先週末 方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	0.89% （▲0.06）	72.39円 （▲0.86%）	+1.4% 2018年4Q	0.75%	発表された貿易収支と小売売上高は市場予想を下回る内容。市場予想通り中銀は今年3度目の利下げを実施し、今後の追加緩和の可能性を示唆。国債利回りは低下。豪ドルは対円で下落。	企業景況感や企業信頼感などが発表予定。住宅市場の底打ちなど国内景気に明るい兆しも見られる中、政策効果の期待もあり、債券・為替市場ともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	0.99% （▲0.11）	67.59円 （▲0.53%）	+2.1% 2018年4Q	1.00%	発表された企業景況感は前月比で低下する内容。企業のインフレ見通しが低下しており、追加緩和観測が高まる中、国債利回りは低下。ニュージーランドドルは対円で下落。	住宅売上高や製造業PMIなどが発表予定。インフレ指数などの動き次第では金融緩和を実施するという中銀のハト派姿勢が続くと見られる中、金利水準は基調としては低下していく展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.19% （▲0.04）	11.76円 （▲1.12%）	-0.7% 2019年2Q	1.50%	発表された小売売上高はほぼ市場予想通りとなる一方で、製造業PMIは市場予想を大きく下回る内容。米国を中心に世界的な景気先行き懸念が高まる中、国債利回りは低下。ノルウェークローネは対円で下落。	鉱工業生産やGDP、CPIなどが発表予定。経済指標に加えて、米中の通商協議や米国の金融政策などの動向をにらんで、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		10/4 （9/27との比較）	10/4 （9/27との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	7.29% （▲0.12）	7.11円 （▲0.39%）	+0.9% 2019年2Q	6.50%	発表された財政収支と貿易収支は市場予想を上回った一方、製造業PMIは市場予想を大きく下回る内容。米国を中心に世界的な景気先行懸念が高まる中、国債利回りは低下。ランドは対円で下落。	企業景況感や鉱物生産量などの発表を予定。これらの経済指標の内容に加えて、大統領の政策運営や格付けを巡る動きなどにも注目が集まる中、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB-	6.64% （▲0.08）	0.76円 （▲0.67%）	+5.1% 2018年4Q	5.25%	発表された消費者信頼感指数は市場予想を下回った他、製造業PMIは好況・不況の分岐点を示す50を下回る状況。9月の反政府デモもあり政治的混乱への懸念も高く、インドネシアルピアは対円で下落。国債利回りは低下。	特に注目すべき経済指標の発表はなし。金融緩和効果に期待もあるが、政権運営への信頼感を回復させる施策が必要な状況で、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.27% （▲0.15）	1.50円 （▲1.81%）	+5.0% 2019年2Q	5.15%	発表された製造業PMIは前月比横ばいとなる内容。5会合連続で利下げが実施され、中銀は景気減速に対して従来以上に警戒を強め、追加緩和の可能性を示唆する中、国債利回りは低下。インドルピーは対円で下落。	鉱工業生産などが発表予定。中銀の追加緩和の可能性を探る一方で、金融緩和の累積的な効果や法人税減税による投資の活性化などへの期待感もあり、債券・為替市場は一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

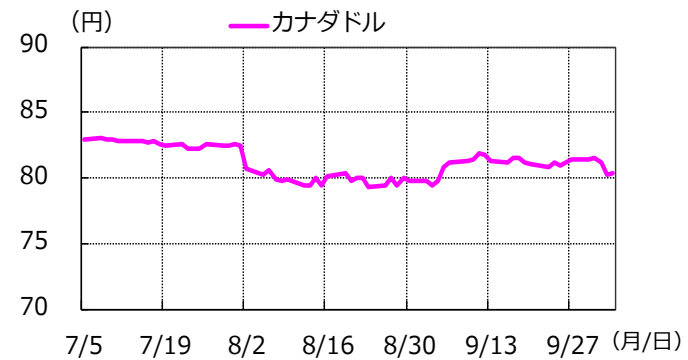
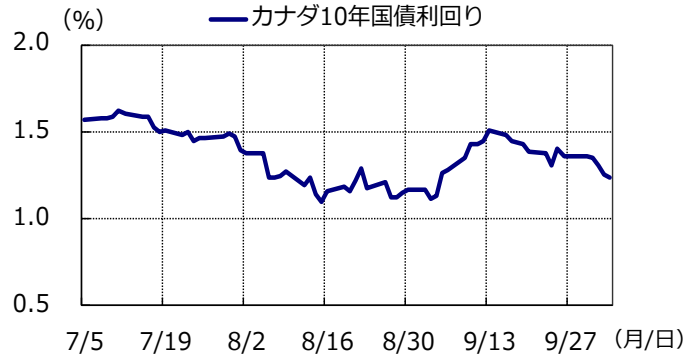
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

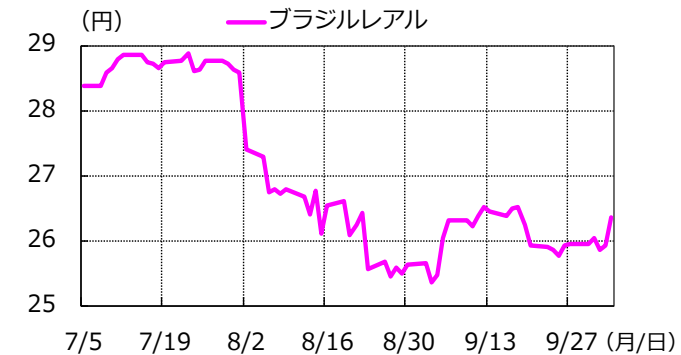
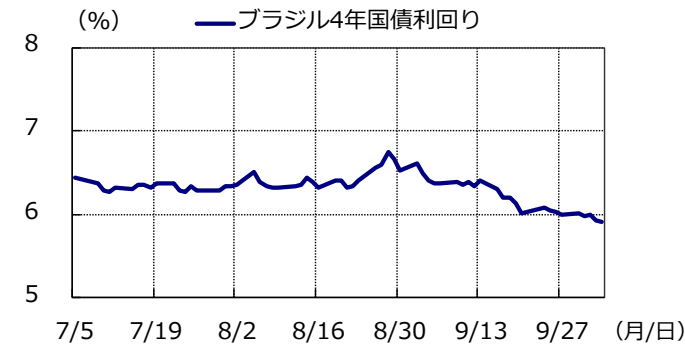
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/5～2019/10/4

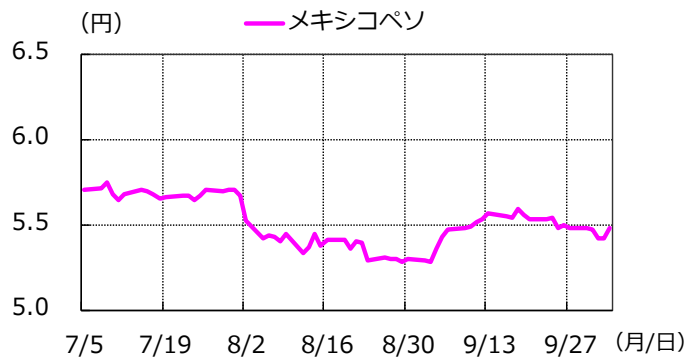
カナダ



ブラジル



メキシコ

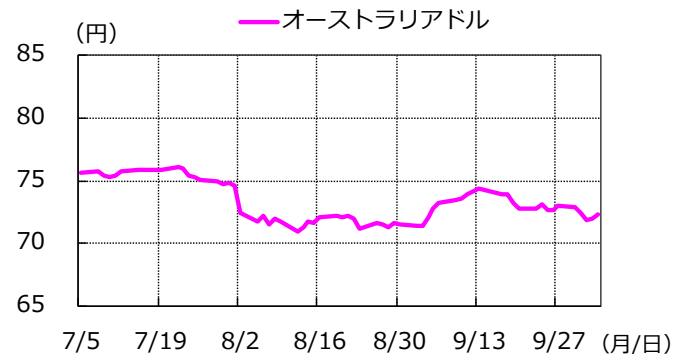
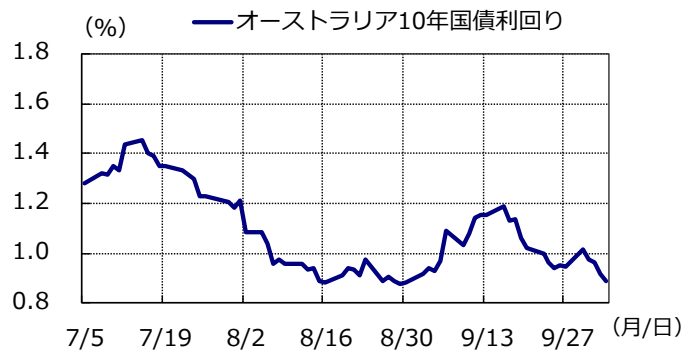


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

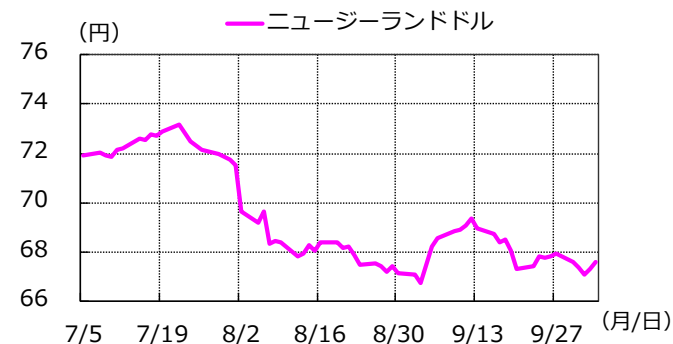
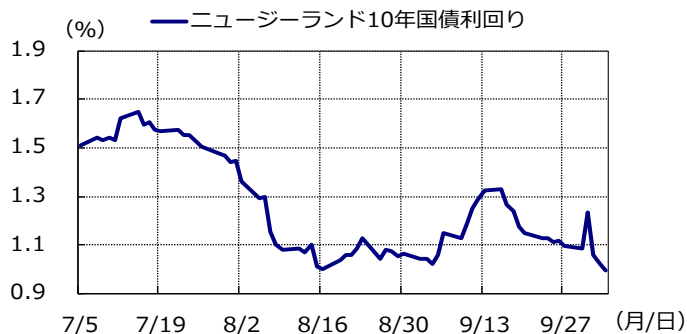
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/5～2019/10/4

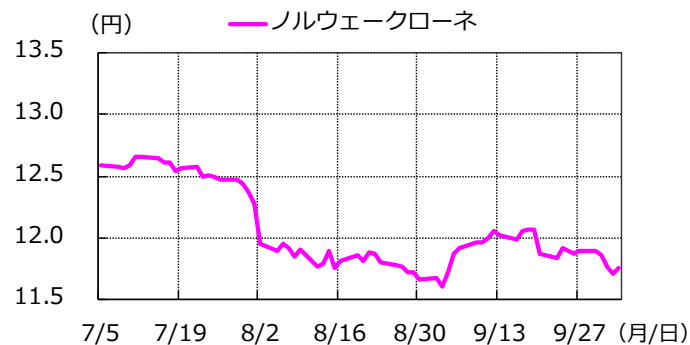
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

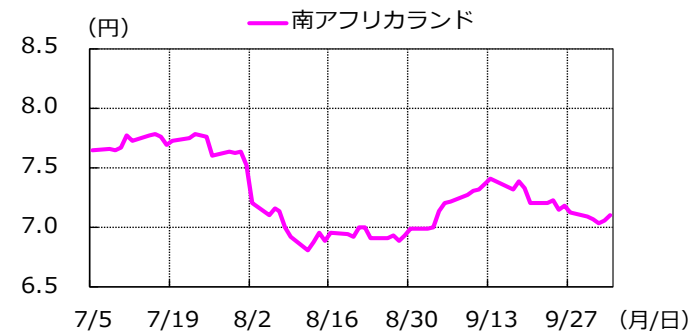
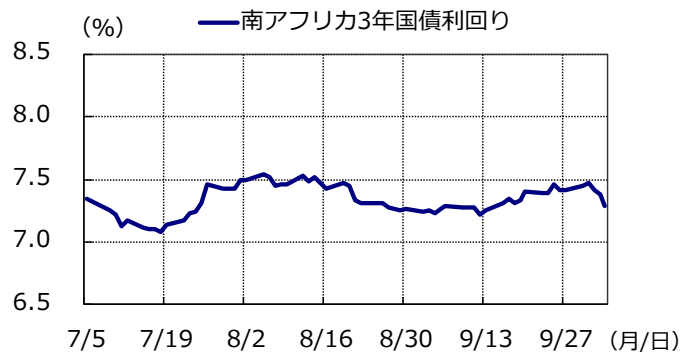


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

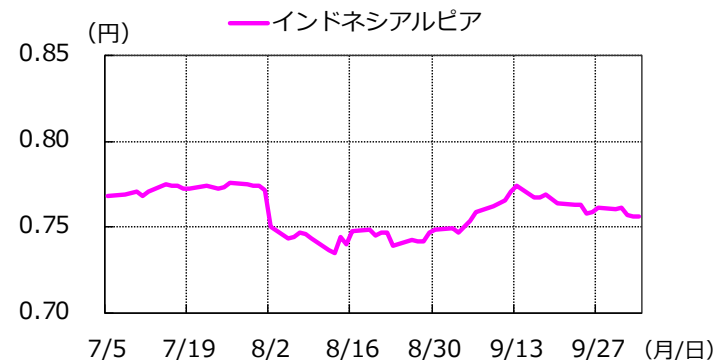
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/7/5～2019/10/4

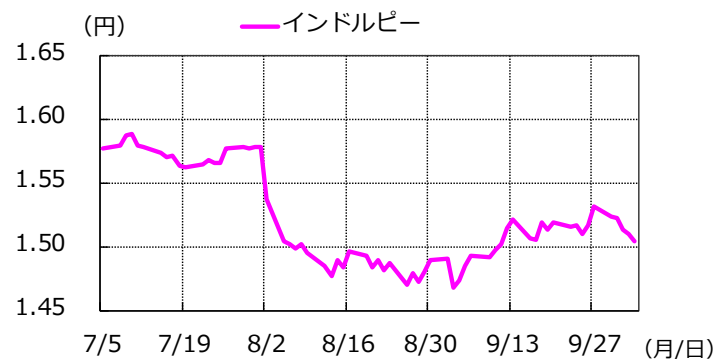
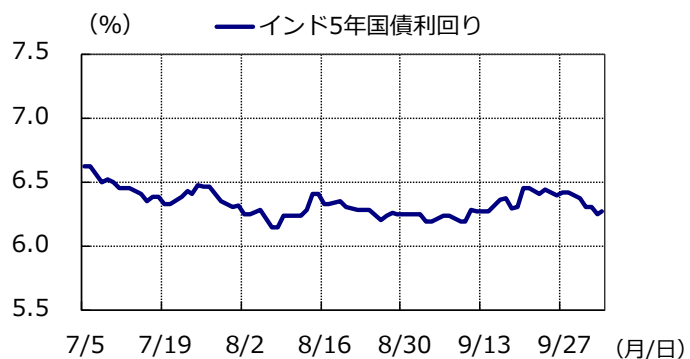
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。